

万葉集には防人とその家族らが詠んだ百首以上の歌が収録されている。防人は七世紀の中ごろから筑紫、壱岐、対馬などの北部九州地方の防備にあたった兵士だ。主に遠江（静岡県西部）以東の東国から徵用され、任期は三年とされていた。赴任に必要な食糧や武器などもすべて、自己負担であり、農民にとつては重い負担だ。しかも、任務終了後の帰国際には付き添いもなく、無事に故郷に帰れなかつた者が少なからずいたことも想像に難くない。

「千葉の野の、児手柏の、  
ほほまれど、あやに愛しみ  
置きて誰が来ぬ（訳・わが童の手は花のつぼみのよう

現在に生きるわれわれは、日本国民というだけで、先人が血や汗を流して、豊かなとして築いてきた政治制度、文化、社会インフラなど多くの様々な資産を受け継ぐ権利を行使し、豊かな生活を享受している。従つて、それをさらに良いものにして未来の国民に引き渡す責任がある。よりよい社会へ発展させるためには、先人への感謝と子孫への責任の心が最も大切である。その心を養い、国民の国家意識を育むためにも、建国記念の日を国民こそつて祝わなければならない。

# 〈天録時評〉

## 祖國の歴史を共有し国家意識の涵養を

された形骸化藩体制源は律して、アジアの来航明治維建設を合を強たのが威の再

制度を真似たが、群臣による合議制を受け継いだのである。聖德太子の十七条憲法でも「事は独り断むべからず。必ず衆とともにによろしく論うべし」（第十七条）とされているが、大化の改新の詔でも、群臣の協力による統治こそが皇祖以来の伝統と宣言されている。緊迫したアジア情勢の中で、わが国の国家体制の基本が定まつたのである。

要するにわが国は古代から  
の伝統を引き継ぎ、天皇  
を頂点とする独自の国家制  
度を有する立憲民主国な  
である。多くの先人が流し  
た血や汗の結晶として現在  
があることに感謝すべきで  
ある。こうした国家の歴史  
を国民が共有することが、

権が定められたと主張されているが、天皇を頂点とする國家制度は維持されていいる。現憲法下では、國權の最高機関である国会によつて決定された事柄が、国民の統合の象徴である天皇による内閣総理大臣の任命などの国事行為を通じて、国民の決定として最終的に承認、実施されると解するべ

裁可するという形式が明治政府でも採用された。合議で決定するという伝統が継承されたのである。この合議制は、大日本帝国憲法にも継承され、行政権、立法権、司法権、統帥権など、國家の根本権能は天皇の大権に属するとされながら、実際には各機関によつて行使される体制であった。

『日本時事評論社』  
公式ウェブサイト  
アドレスは<http://www.nipponjijihyoron.co.jp>

『日本時事評論』の記事や発刊書籍の案内、コラムや活動紹介などの記事を掲載しています。新聞の購読申し込みや書籍の購入申し込みもできます。

紙面案内

- 2 辺野古の県民投票は税金のムダ遣い／巷露

3 国家の行事の大嘗祭に公費は当然／草木片

6 日台交流の緊密化に台湾関係法制定を

7 学び舎教科書を斬る②／小さな種の物語(17)

8 米国がNATO脱退の可能性も

A large black circle is centered within a white square frame. The circle occupies approximately half of the square's area.

# 皇紀2679年 平成31年2月11日 建国記念の日

# 国旗を掲げて日本の建国をお祝いしましょう

「建国記念の日」は、わが国の「歴史・文化・伝統」を尊び日本人としての自覚や誇りを深める大切な日です。





&lt;天録時評&gt;

# 大嘗祭は国家の安寧のための祭祀

国家の重要な行事に公費支出は当然だ

皇位継承に伴う伝統的儀式である大嘗祭は、天皇一代に一度限りの重要な祭儀だ。即位の礼は、天皇が践祚後に皇位を継承したことを内外に示す一連の国事行為だが、祭祀者としての地位の継承を行うのが大嘗祭とされている。神佛に國家の安寧や五穀豊穣を祈念することこそ「国民統合の象徴」たる天皇の重要な役割である。豊かで平和な国にしていくためにも、大嘗祭は国家的な行事として公費で執り行うべきである。また、国民の理解を深め、関心を広めるために、大嘗宮の長期間の公開を行うべきである。

## 一世一度の儀式

位置づけられている。

天皇は、常日頃から国家、

国民の平和と安寧を祈つておられる。祈りこそが天皇の天皇たる由縁である。そ

のための儀式である大嘗祭

が造られる。こうした造り

は合計八時間にわたってお

畠と呼ばれる神座(寝座)

が、部屋の中心には八重

神嘉殿で代用できるもので

はない。

大嘗宮は、大小約三十棟

の建物で構成される。そ

のうち主要な建物は、新穀を

神様に供え、ともに食す儀

式を行う。「悠紀殿」と「主

殿」だ。悠紀殿と主基殿

の中には、新天皇が神と新

穀を食べるための席と神の

席が部屋の片隅に造られる。

また、部屋の中心には八重

畠を食べるための席と神の

席が部屋の片隅に造られる。

また、部屋の中心には八重

畠を食べるための





&lt;天録時評&gt;

## 学び舎の歴史教科書を斬る②

## 元寇と朝鮮出兵での不当な扱い（上）

学び舎の中学校歴史教科書（以下、学び舎）は、モンゴル帝国と高麗の連合軍による一度の日本侵略（以下、元寇）における日本の惨状はほとんど記述せず、豊臣秀吉の朝鮮出兵における朝鮮の惨状は詳細に記述している。明らかに、日本が朝鮮を攻めたことを強調し、日本を批判させるための編集となっている。こんな教科書は日本の歴史教科書としては不適切だ。

## 記述の少ない元寇

元寇について、学び舎は「一つつながるユーラシア大陸を横断する旅」（さかん）の章の中で記述している。この章は、「ユーラシア大陸を横断する旅」（さかん）で記述している。

## 「小さな種子の物語」（17）

作・画 野村 典成

つづばね

植物は子孫を残すために、小鳥などに食べてもらって種子を散布するもの、果実ははじけて遠くへ種子を飛ばすもの、動物や人にくついて移動するものがよく見受けられるが、羽根や翼や羽毛を備えた種子や果実も、飛翔をテーマに展示会ができるほどに多くあります。その一つにツクバネの果実があります。四枚のプロペラを持つ果実は、羽根つき遊びの羽根に似ています。

つづばね  
るところからその名前があります。  
ツクバネは、半寄生植物で、ツガやモミなどの根に自分の根を吸盤のような形にしてくつつけ、不足した栄養を取り込んでいます。高さは一~二メートルばかりで、果実は熟すと羽根を下に向けます。背の高い樹であれば、このような羽根を使って遠くへ飛ぶ価値もあります。その一つにツクバネの果実は、立派な羽根

になる東西交易」「モンゴル帝国と東アジア」の三つの節で構成されているが、元寇の記述が登場するのは、三つの「モンゴル帝国と東アジア」という見出しの中の本文の一部だけだ。見出しからは、わが国が世界

最大の軍事国家から侵攻されたことが分かる表記はまったくない。



果実原寸8×7ミリ（羽根35ミリ）

ツクバネ  
ビヤクダン科

りたいですね。  
実際に飛ばしてみると、種子の部分が重いので、すぐ落ちてきます。しきその回転は、四枚の完璧な羽根おかげで見事といります。

うほかはありません。ひとつするとその羽根は遠くへ飛翔するためではなく、別の意味があるのかもしれません。例えば、雌雄別々の株なので、あまり離れて生育すると受粉の機会も少なくなるから、付かず離すの距離を保つための羽根なのかもしれません。さらに寄生する木が生育していない場所に飛んで行つては意味がないので、寄り添つて家族を構成しているので

になる「東西交易」「モンゴル帝国と東アジア」の三つの節で構成されているが、元寇の記述が登場するのは、三つの「モンゴル帝国と東アジア」という見出しの中の本文の一部だけだ。見出しからは、わが国が世界

最大の軍事国家から侵攻されたことが分かる表記はまったくない。

本文の記述も「一二七四年、元はおよそ三万の兵力で対馬・壱岐（長崎県）をおそい、九州北部の博多湾（福岡県）に攻め入ったあと、引きあげました」「一二八一年、ふたたび日本を侵略しようと、およそ十五万の兵力を送りました」と簡単に触れているだけだ。

さらに「朝鮮民衆のたたかい」の見出しの節で、民衆に視点を当てて戦争の様子を記述している。元寇に

ついで、武士や住民がいかに戦ったかを詳細に記述すべきだ。元寇の元軍の数についても、武士や住民がい

し、貶めたい意図があるかのように記述である。

元寇で対馬や壱岐の住民が受けた殺戮などの惨状と、秀吉の朝鮮出兵で朝鮮の住民が受けた被害の記述を比較しても、その意図

が読み取れるので、次回紹介する。

## 福山城（備後国）

720-0061

広島県福山市丸之内一丁目八番  
TEL(084)922-2117 FAX(084)922-2126  
E-mail castle@city.fukuyama.hiroshima.jp

再建天守



・別名	久松城、葦陽城	・遺構	櫓、門、鐘櫓、石垣
・城郭構造	輪郭式平山城	・再建造物	天守、月見櫓、御湯殿
・天守構造	複合式塔型5重6階(1622年、非現存) (1966年RC造復興)		
・築城主	水野勝成	・指定文化財	重要文化財（伏見櫓、筋鉄御門）
・築城年	1622年	・位置	福山市指定重要文化財（鐘櫓）
・主な改修者	阿部氏		北緯34度29分27.74秒
・主な城主	水野氏、松平氏、阿部氏		東経133度21分40.04秒
・廃城年	1874年		

## 水野勝成公入封400年に寄せて

元和五年（1619年）水野勝成は備後鞍の浦に上陸、幕府から本高十万石の領地引き渡しを受けることで福山藩の歴史は始まる。水野勝成は永禄7年（1564年）三河国生まれで、父忠重は徳川家康の叔父であり、勝成と家康は従兄弟にあたる。関ヶ原の戦い、大坂の陣を経てなお、西日本には有力な外様大名が名を連ねていたがそれらに対して睨みを効かせる、まさに西国鎮衛の任を担っての入封である。

勝成は一旦神辺城に入城後、築城の場所を定めるべく領内をくまなく見分して回り、その結果陸路の要所であった山陽道と外港であった鞍の浦の中間地点である現在の地を選ぶ。元和六年（1620年）から始まった築城工事は京都伏見城や神辺城からの移築もあり元和八年（1622年）に完成している。更に勝成は築城とともに城下の整備、いわば町づくりにも取り組んでいる。築城以前、現在の市街地中心部のほとんどは葦原だったと言われており、海を埋め立てて城下を築く、まさに一からの建設であった。その他の勝成の偉業として日本でも5番目に古いと言われる上水道の敷設が挙げられる。海を埋め立てることで設立された福山城下では井戸水に海水が差し込むといった事例が発生しており、それを解消するために芦田川から取水した真水を現在のどんぐん池（蓮池）に貯水後、地中に埋めた木管や竹管を通して城下に流して生活用水とするなど、町人の生活水準向上に力を入れている。更に備後一宮吉備津神社の本殿造営等寺社仏閣の整備、備後表や綿作に代表されるような産業の強化・推奨等勝成が現在に遺した偉業はさまざまなものがあり、その後の福山に大きな影響を与えている。

勝成隠居後も町づくりは歴代藩主によって引き継がれるが水野家は五代藩主勝岑が幼くして亡くなるという不運を迎える。しかし徳川幕府に功績の大きい水野家は分家が本家として跡を継ぐことが例外的に許され、血筋は現在まで続いている。その後も松平家一代そして阿部家十代と続くことで福山藩の歴史は紡がれていくのである。

明治六年（1873年）廢城となるも福山の町民は寄付金を募り福山城・伏見櫓を修理すると共に福山城公園として公開し、保存整備に努めるなどまさに福山城は福山のシンボルであり続けた。残念ながら昭和20年（1945年）8月8日の福山大空襲の際に天守閣は焼夷弾が直撃することで焼失してしまうが昭和40年（1966年）市民や市内企業からの寄付金により再び福山城はその姿を取り戻すこととなる。

最後に平成31年（2019年）はそうした福山の礎を築いた勝成が福山に入封をして400周年という大変大きな節目の年であり、更に新元号4年（2022年）には築城400周年を迎える旨記して括りとする。

